第６回火山噴火予知連絡会議事録

日　　時：昭和５１年２月２０日（金）　１３時３０分～１６時２０分
場　　所：気　象　庁
出　席　者：横山、高木、下鶴、行武、青木、久保寺、加茂、太田（九大）、
沢田（科技庁）、坂元（国土庁）、林（文部省）、瀬戸、杉浦、有住、諏訪、未広
臨時委員：小坂（東工大）、高橋（博）（国立防災科学技術センター）、
堤（鹿児島地方気象台）、白石（旭川地方気象台）

〔永田会長海外出張中につき、下鶴委員、本連絡会の会長業務を代行。議事に先立ち、本日の連絡会の臨時委員として、四氏の紹介があった〕

1. 第５回連絡会議事録（案）は異議なく承認された。
2. 最近の火山活動について（報告及び検討）

2.1　桜　　島

加茂委員：地盤変動、地震活動

堤臨時委員：火山活動と火口状況

瀬戸委員：鹿児島市付近一等水準点の上下変動

昨年１２月以降、表面活動は少康状態にあるが、地殻変動等にはやや複雑な動きもみられるので、近く２回目の集中観測を実施の予定である。

2.2　阿　蘇　山

久保寺委員、野島（気象庁）：多少の活動がみられたが、現在おだやかである。

2.3　硫　黄　島

高橋臨時委員：今年１月、阿蘇台断層で小さな水蒸気爆発があった。

小坂臨時委員：小笠原硫黄島最近の状況

2.4　十　勝　岳

白石臨時委員：十勝岳６２－Ⅰ火口の活動について

2.5　伊豆大島

行武委員：地磁気変化は表面活動と傾向的に一致している。

野島（気象庁）：おだやかである。

2.6　そ　の　他

下鶴委員：加久藤カルデラ北方並びにカルデラ内部の群発地震その後の経過

野島（気象庁）：浅間山の地震活動

3. 連絡会庶務報告

3.1　連絡会報を第６号から１００部増冊することについては、当局に要望中で、来年度初めには結果がわかる。

3.2　５１年度火山噴火予知計画関連予算について報告後、文部省、海上保安庁、気象庁各委員より詳細につき説明があった。

3.3　気象庁火山観測施設整備計画につき質疑

雌阿寒岳：霧島より優先させるべきではなかったか（横山委員）

草津白根山：下鶴委員

三　原　山：行武委員

4. 協　議　事　項

4.1　火山地域で起こる地震の取扱いについて

本連絡会開催日の前日実施された地震予知連絡会で「火山地域で起こる地震について本連絡会と地震予知連絡会の責任分野がオーバーラップする場合の取扱いをどうするか」が問題となり、本日の連絡会で意向をとりまとめ、地震予知連絡会へ伝達する必要が生じたため協議した。

・最近、火山地域で発生した地震のうち、５０年１月の阿蘇地震、５０年９月以降の加久藤カルデラ地震は火山噴火予知連絡会、本年２月の伊豆半島東部の地震は地震予知連絡会で担当した。データの流れ先によりきまったものだが、まだ不都合な事態は起こっていない（末広委員）

・はじめから定義することはむずかしく、ケースバイケースしかない（高木委員）

・防災的見地からは、分野の調整にとらわれると、中間に空白を生じ不手ぎわを起こしやすいので、多少のオーバーラップはやむをえない（有住委員）

・両連絡会のパイプの風通しをよくすることに期待したい（青木委員）

・現行でやるほかない（久保寺・横山委員）

以上、圧倒的にケースバイケース、現行どおりの線が強調された。

4.2　観測結果の発表について

観測結果が正確に報道されるためには、マスコミに納得のいくよう説明を加える必要がある（下鶴委員）

4.3　次回連絡会開催期日

永田会長の帰国を待ち、火山学会春季大会の前後の適当な日をおって取りきめる。

〔１６：３０～１６：４０　記者会見、気象庁記者室〕